

## 令和6年度 自己評価報告書

令和6年度の教育活動について、学校評価（教員自己評価、保護者アンケート、児童アンケート、地域アンケート）の結果を踏まえ、各担当で分科会を実施し成果と課題についてまとめました。全体会で各分科会での成果と課題を共有し、そこから、令和7年度の各分掌の方針をたてました。この方針に基づいて教育活動を進めていきます。

### 1 研究推進部

#### （1）令和6年度の重点・成果

- 代沢小の子どもたちが、Agencyを発揮できるようにしてきた。
  - ・「教材研究」、「子どもに任せることころ」「主体的に学んでいる姿」を明らかにして授業準備をし、子どもたちが目的意識をもって自ら学習を進められるようになってきた。
  - ・「共有ノート」活用など、集団思考を深めるために、タブレット活用を探り、実践することができた。
- ロイロノートやTeamsを活用し、「みんなで使えるもの」「共有」することで合理化することができた。

#### （2）令和6年度の課題（学校評価から）

- 本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。（保護者 0.87 ポイント）
  - 児童は肯定的に回答している。教員の肯定的評価は令和5年度よりも低下している。保護者についても令和5年度と同様に1ポイントを下回っている。授業改善が後回しになったところもあった。「代沢スタディ・スタイル」と関連して、板書の在り方も含めて研究を深めていく必要がある。
- 子どもは授業で、学習することについて、自分の考えをもとうとしている。（保護者 0.89 ポイント）
  - 児童、教員は1ポイントを超えているが、昨年度よりも肯定的評価が下がっている。保護者についても令和5年度と同様に1ポイントを下回っている。児童が「課題を解決しよう」と思えるような授業改善を一層図る必要がある。
- 子どもは授業で、自分の考えを話したり、書いたりして伝えようとしている。（保護者 0.79 ポイント）
  - 児童、教員は1ポイントを超えているが、昨年度よりも肯定的評価が下がっている。保護者についても令和5年度と同様に1ポイントを下回っている。児童が考えを表現している姿を教員が保護者に向けて発信する機会を増やす必要がある。

#### （3）改善の手立て

- ・「代沢スタディ・スタイル」による主体的、対話的な学習の推進については成果があるので継続する。この中で、考えを表現する場をより増やしていくようにする。
- ・タブレット活用については、集団思考を深める活用方法を開発することを継続する。

#### （4）令和7年度の方針（学校評価・自己評価を受けて）

- 代沢小の子どもたちが、Agencyを発揮できるような指導を目指す。
  - ・「教材研究」、「子どもに任せることころ」「主体的に学んでいる姿」を明らかにして授業準備をしていく。
  - ・集団思考を深めるためのタブレット活用の在り方を探り、実践する。
- 学年会、専科会を生かす。
  - ・授業づくり ・お互いに授業を見合う
- 時間の確保をしていく。「みんなで使えるもの」「共有」することで合理化できるものはしていく。

## 2 生活指導部

### (1) 令和6年度の重点・成果

○学校のきまり・安全指導等、1ポイントを超えている項目が多かった。

- ・学校での過ごし方やルールについて意識できているが、今年度は教職員の数値が下がっている。ただし、きまりについては都度確認にならないように年度当初だけでなく、朝会での全体指導（生活指導主任）、学年集会等での指導・学級指導・個々の聞き取りをして、継続的且つ様々なケースに応じた指導をしていく必要がある。

○いじめ未然防止や早期対応

- ・情報共有を行う機会を毎月設けたことや、担任だけが聞き取りをするのではなく、校内体制を整えてきた。

### (2) 令和6年度の課題（学校評価から）

- 学校のきまりについて→「学校に必要なものを持ってこない」の共通認識を教職員・児童・保護者含めて行いたい。都度対応にならないようにしたい。
- 代沢しぐさの浸透→保護者の数値が毎年低い（今年度は0.8ポイントで0.1ポイント増）。「わからない」の回答が多いのではないか。
- 廊下歩行（自由記述より）→右側通行を意識させる。今年度は朝会・集会等全体で集まることも増え、危ない面があった。普段の教室移動や休み時間の移動も含めて考えたい。

### (3) 改善の手立て

- ・学校のきまりについて保護者会でも丁寧に説明する。（全体会で生活指導主任が話す。）
- ・代沢しぐさを少しリニューアルしてはどうか。（人も自分も大切に「相手を大事にするふるまい」の文言は変更せず、中身を「あいさつ」「話の聴き方・伝え方」「整理整頓」の3つで整理する。学び舎のキャラクターあいさつ富士太郎、礼儀正、片付けちゃんとタイアップも可能。だいざわんこのキャラクターを使うなど児童にわかりやすく掲示し保護者・地域にも通知する。
- ・廊下歩行等生活面の課題に対しては、週目標だけでなく、新学期に廊下歩行の強化月間を設けるなど、具体的な手立てを講じ、全校全体で取り組む。表示等作成して視覚的にも意識づけしたい。

### (4) 令和7年度の方針（学校評価・自己評価を受けて）

- ☐人権意識の向上、互いのよさを認め尊重し合うあたたかい風土をつくり、教職員・児童相互の好ましい人間関係を築く。
  - ・そのために、「ひともしぶんも大切に～聞いて、聴いて、考える～」を生活指導目標とし、代沢しぐさを「あいさつ、話の聴き方・伝え方、くつそろえ」の3つにしぼり、人を大切にすること、よく聞き（たずね）よく聴き（受け止める）考えることで学校生活を気持ちよく過ごせるようにしていく。
- ☐いじめ・不登校・問題行動は早期発見・早期対応を教職員で連携して対策を行う。

## 3 特別活動部

### (1) 令和6年度の重点・成果

○昨年度に引き続き、キャリアパスポートやめあてカードを積極的に活用することで、児童が目標をもって学校生活を送っていけるように取り組んだ。委員会やクラブのカードの早期返却を徹底し、児童がカードをいつでも確認できるようにした。

○キャリア教育について特別活動部を中心に理解の深化を図り、学年の取り組みへつなげていくようにし

た。低学年のキャリアパスポートの運用や、パスポートを見返す時間の設定、パスポートを元に友達と話し合う取り組みの実施など、活用の形について具体的に考えることができた。

## (2) 令和6年度の課題（学校評価から）

- 「キャリア教育について」本校の教員は、子どもたちに目標をもたせ、その実現のために支援している。

保護者 0.67 ポイント→0.91 ポイント

→若干の数値の上昇が見られた。各授業でのめあてを大切にする指導や、行事での指導が一定の効果をあげていると考えられる。引き続き、支援の機会や形などを校内で共通理解を図りながら取り組みを続ける。

- 「キャリア教育について」本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。

保護者 0.22 ポイント→0.45 ポイント

→若干の上昇が見られた。今後も、校内で共通理解を図り、全学年児童が「生き方や将来につながる学びだ」と実感できる機会を増やしていく。

## (3) 改善の手立て

- ・キャリアパスポートの活用の具体化及び共有。年間計画への位置づけ。
- ・キャリア教育で身に付けたい力の、発達段階に応じたフレーズ化及び共通理解。

## (4) 令和7年度の方針（学校評価・自己評価を受けて）

「自分の目標や役割に向かって、自主的に活動できる児童を育もう」

～書いて、見つめて、価値づけよう～

□児童が目標を意識し、前向きに自信をもって生活していけるようにする。

- ・キャリアパスポート、めあてカードの活用の工夫。自らを見つめ、価値づけられる時間の設定。
- ・教員による、児童のめあてを意識した対話的なかわり。

□学級活動やせせらぎ班活動等での役割を明確にし、めあてと振り返りのサイクルを確立する。

□児童がそれぞれの役割で補い合って活動することを通して、「人と関わる力」を伸ばせるようにする。

□キャリア教育にかかわる各種取り組みの教員・児童間におけるさらなる理解の深化を図る。

## 4 ICT推進部

### (1) 令和6年度の重点・成果

○目的を明確にもったICT機器の活用を行い、児童相互の関わりをより一層深められるようにしたい。  
○ペーパーレスできることがまだまだ多分にあるため、一つ一つ精査していき、段階的に推進していきたい。

○ロイロやティームズ等の使い分けが煩雑になってしまっている。個人情報等の誤送信も防ぐため、伝達事項ツールの一元化（一本化）を図るべきである。

○アンケートの回収やボランティア募集、学校便りの配信等の要項は、「すぐーる配信」等で素早く確実に、すべてのご家庭に行き届くようにできた。

### (2) 令和6年度の課題（学校評価から）

- 「学び舎」の周知方法

・「学び舎」での取り組みの周知があまりされていなかった。その一方でホームページの更新が多く、「学校の様子が伝わる」についての肯定的な回答の割合が0.1ポイント上がった。

●より一層の使いやすさの向上

- ・職員会議資料のナンバリングやログインを簡略化させていくための辞書ツールを使ったログインなど、使いやすい環境整備を整える。

●事務連絡の確実な周知方法

- ・現在、教職員間の共通理解のツールとしてC4th、ロイロ、ティームズなどがあるが、住み分けがあいまいなままになっているので統一化できれば良い。

(3) 改善の手立て

- ・学校だよりに「学び舎」のトピックを作成し、地域に周知する。
- ・職員会議資料のナンバリングを一元化し、資料を作成した際に各担当が入れる。
- ・C4thが職員夕会資料、ロイロノートが授業内資料、teamsが職員会議資料という形で共通理解のツールとして住み分けを整理する。

(4) 令和7年度の方針（学校評価・自己評価を受けて）

「目的意識をもったICT機器の活用で、子どもの学びの質を高める」

～子どもも保護者も安心できる「スピーディー&確実、快適」なICTの効果的活用～

□ロイロノートを使った共有財産の構築を行い、余裕をもった教材研究の実現

□保護者もより一層教育活動に協力しやすくなるための、「google フォームズ」「すぐーる配信」「学校だより」の積極的活用

□クラスの友達の意見を多面的に見て、集団思考を深めていくための共同作業をICTや実際の話し合い等で取り組み、児童双方向のかかわりに深みをもたせるようにする。

□ルールを守ってタブレットを扱う習慣を身に付け、段階的にタブレットルールのバージョンアップを図る。

5 学力向上部

(1) 令和6年度の重点・成果

○学習習得確認調査・分析結果の活用（校内、学び舎での学習習得確認会議から）

- ・結果を分析して、代沢小としてどんなこと大切にして指導にあたるか、共通理解を図った。また、具体的な改善案を提示した。

○通知表作成にあたって

- ・評価規準を見直して作成した。早い段階で確認し、校内、学年が共通した意識で指導にあたることができるようにした。

○「自主性」を育む家庭学習（宿題への共通理解）

- ・代沢小の宿題について共通理解を図った。漢字、計算の基本を身に付けさせると共に、家庭で学習への自主的な姿勢を導くようなしかけをしていくことを共通理解した。

(2) 令和6年度の課題（学校評価から）

●「丁寧な指導」児童 2.03 ポイント→1.94 ポイント 保護者 1.19 ポイント→1.46 ポイント

教員 1.91 ポイント→1.43 ポイント 児童のポイントは微減

→教員のポイントが減少している。より丁寧に指導できる、したいという反応がある。

●「家庭での自主性の発揮」児童 1.28 ポイント→1.31 ポイント 保護者 0.36 ポイント→0.39 ポイント

教員 1.00 ポイント→1.30 ポイント

→保護者にとって、どちらでもない、と受け止められる数値となっている。児童が家庭でもすすんで学ぶ態度が発揮されるような手立てを考えたい。【宿題の考え方】

- 「私は、代沢小学校の基本を基準とし、一人一人の児童に応じた指導を行っている」

教員 2.05 ポイント→1.27 ポイント

→そもそも代沢小の基本とはどんなことか。算数での指導の仕方の共通理解を図るとともに、社会科生活科の研究を活かした「自主性を育む」指導をしていきたい。

### (3) 改善の手立て

- ・児童の自主性を育むための手立てを講じ、保護者にも伝達し、共有を図る。(宿題の考え方・情報の発信の手立て)
- ・学習習得確認調査の結果を活かす。  
共通して取り組むことを可視化して意識できるようにする。また、学年会、専科会を活用し日々の学習指導に学び舎としての考え方を反映させる。
- ・学習環境の整備  
算数での板書やノートの手書き方についての指導を共有する。また、各教科等でめあては「青」、まとめは「赤」で囲むといった学年をまたいだ共通の指導について整頓する。
- ・ランランタイム(計算)の見直し。  
基礎的な力の定着のために、指導と評価をより効率化していく。

### (4) 令和7年度の方針 (学校評価・自己評価を受けて)

「同じ意識をもって学習指導にあたり、子どもたちの力を伸ばしていく。」

「意図をもって情報を発信する。」

□学年がかわっても児童が混乱しないよう、共通した意識で授業ができるよう学習環境を整える。

□身に付けさせたい知識を「見える化」していく。(共通した掲示物)

- ・学習習得確認会議の内容を生かし、「学び舎としての指導」を意識して指導にあたる。
- ・代沢小として「自主性」を育むための取組を検討し、共有する。

□宿題の考え方・自主的に学ぶしかけを盛り込む。

□校内での意識の確認

- ・教員間で活動の意図を共有すると共に、保護者には「学習活動にどんなねらいがあるのか」分かりやすく伝達していく。

## 6 体育的行事部

### (1) 令和6年度の重点・成果

○ランランタイム(体力向上の取組)など運動に親しませる機会を大切にし、運動量を確保した。

### (2) 令和6年度の課題(学校評価から)

- 家庭と学校との連携について

- ・学校行事。PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。保護者：0.38 ポイント(昨年 0.73 ポイント)
- ・3 学校重点目標を理解している。保護者：0.18 ポイント(昨年 0.33 ポイント)

- ランランタイム・外遊び。いずれも 1.0 ポイントを上回っているが、児童のみ昨年度より数値が下がっている。児童：1.41 ポイント(昨年 1.72 ポイント)、保護者：1.00(昨年 0.88 ポイント)、教員：1.81

ポイント（昨年 0.78 ポイント）

（３）改善の手立て

・「情報の発信」

学校便り・保護者会・HPを通して、学校での取組を発信していく。また、児童や教職員にも学び舎の取組を朝会等で発信し、各学級でも実践できるようにしていく。

・「家庭、地域等との連携」

学校便り・保護者会・HPを通して保護者が重点目標を目にする機会を増やす。行事の案内や様子を発信し、保護者にもすすんで参加してもらえるようにする。

・「児童の体力向上」

今年度同様ランランタイム（体力向上の取組）では、校庭・体育館を使用して、児童の運動量を確保する。

（４）令和７年度の方針（学校評価・自己評価を受けて）

□情報の発信

- ・発信方法を工夫し、効果的に学校のことを伝える。

□家庭、地域等との連携

- ・重点目標の合言葉を教職員が意識し、学級の様子を保護者会で伝える。  
地域、家庭と力を合わせて子どもを育む意識をもつ。

□児童の体力向上

- ・運動に親しませる機会を大切にし、運動量を確保する。